


分野	33	生涯学習・文化・スポーツ	通番 66
施策	331	生涯学習環境の充実	
5年後の目標		誰もが人生を通じて学びへの意欲を向上させ、また、仲間とともに学びを楽しんで、自己実現につながっている。	

概要							
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目		決算額(円)	担当課	
	各種団体・ サークル等活動支援事業		会計	款	項	194,184	中央公民館
			一般	10	4		
事業の概要							
地域の文化力向上のためには、市民の自主的な学習と団体の活動が不可欠です。活発化された活動が地域に還元されることにより、地域全体の文化振興とコミュニティ活動の促進につながるため、社会教育施設としての中央公民館を拠点として活動するサークルや団体の活動を推進します。							


令和元年度の取組							
D (取組)	指標	公民館登録サークルの市民参加人数				単位	人
	現 状 (計画策定時)	年度	28	29	30	1	2
	3,437 (平成26年度)	目標	3,480	3,510	3,880	3,910	3,940
		実績	3,818	4,056	4,140	4,375	
	指標	公民館(社会教育ホール)利用者数				単位	人
	現 状 (計画策定時)	年度	28	29	30	1	2
	79,916 (平成26年度)	目標	80,000	80,000	80,000	80,000	80,000
		実績	67,825	73,712	77,865	80,032	
	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館サークル連絡協議会(略称:公サ連)の会員が中心となり、公サ連まつりの実施や市民ギャラリーの作品展示、ガラシヤまつりのオープンハウスを利用したサークル加入のための啓発活動を実施しました。 ・その他、会員交流会、ガーデニング教室、会員親睦会など、サークル活動の啓発、発展のための活動を支援しました。 ・交流会の報告を「こみか」(公民館だより)に写真入で掲載し、公サ連加入の募集についても記載しました。 						公サ連まつり 

施策の「5年後の目標」に対する評価				
令和元年度の達成状況				
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応頁
		主な社会教育施設の利用者数	年間約40万人(社会教育ホールなど市5施設の計)で推移しています。	202
	達成度合	A:目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	達成状況	・令和元年度の公民館登録サークルの市民参加人数は4,375人(サークル会員の市内構成員数)となり、平成30年度と比べると235人増となりました。公民館登録サークル192団体のうち、公サ連へ加入している団体は35団体、495人であり、平成30年度と比べると2団体、5人増となりました。公民館利用者数については、平成30年度と比較し2,167人増え、目標値を上回る結果となりました。
課題等	・サークルが公サ連に加入することで、サークル間の横の繋がりができたり、発表の場ができ、中央公民館で定期的に継続して活動することにつながります。登録団体や登録人数に対して、公サ連への加入割合が低く、公サ連の会員が今年度は微増したものの、過去数年の数字をみると減少傾向にあることが課題です。公サ連へのサークルの新規加入は、令和元年度は2件となりました。公サ連未加入サークルに対してさらに加入を促す必要があります。			

目標達成に向けての次年度以降の対応	
A (行動)	方向性 1:計画通りに進めることが適当 対応策等 ・会員との意見交換等により公サ連に対する支援を強化します。公サ連活動に焦点をあてたチラシを作成し、サークルの会員数増加に向けた広報活動を実施します。

分野	33	生涯学習・文化・スポーツ	通番 67
施策	331	生涯学習環境の充実	
5年後の目標		誰もが人生を通じて学びへの意欲を向上させ、また、仲間とともに学びを楽しんで、自己実現につながっている。	

概要								
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目			決算額(円)	担当課	
	公民館定期講座開設事業		会計	款	項	目	1,070,020	中央公民館
			一般	10	4	2		
事業の概要								
地域の文化振興と生活向上のためには、生涯学習環境の充実が必要です。市民の自主的・主体的な学習意欲の喚起を図るために、市民の多様な学習ニーズに対応し、ライフステージや現代的課題に即した学習機会や学習情報の提供、相談体制を充実します。								


令和元年度の取組							
D (取組)	指標	公民館講座の参加率(参加予定者数÷定員数)				単位	%
	現 状 (計画策定時)	年度	28	29	30	1	2
	89.8(平成26年度)	目標	90.4	90.8	93.5	93.7	93.9
		実績	93.1	93.3	91.7	93.9	
<p>・各世代のニーズや課題に応じた各種講座として、青少年教育(青少年発明クラブ12回)、男女共同参画(男女共同参画講座1回、多文化共生子育て講座中止)、高齢者教育(熟年生き生き講座11回)、家庭教育(びよびよクラブ10回、子育てふれあいルーム76回、家庭教育学級 特別編2回)、現代的課題講座(日本語教室中止)、福祉教育(聴覚言語障がい者学級1回)、を実施しました。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、3月の講座は中止になりました。</p> <p>・29年度に試行、30年度から本格的に実施した市民企画講座を元年度も実施しました。総合計画から抽出したテーマに沿って、市民自らが講師となり39企画99講座に達しました。多くの市民が参加できるよう、類似テーマの講座を同じ月に開催しないよう調整しました。(なお、市民企画講座は29年度から実施している講座のため上記参加率には含めていません。)</p> <p>・これまで実施してきた従来型(公民館が企画)の2講座を市民企画講座に振り替えて実施しました。</p>					市民企画講座		
							

施策の「5年後の目標」に対する評価				
令和元年度の達成状況				
C (評価)	評価指標	評価指標の傾向・トレンド		対応頁
		—	—	
C (評価)	達成度合	B: 目標をほぼ達成できた(目標の80%~100%程度)	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> 講座終了後に参加者へのアンケート調査を実施し、講座の効果等を測定しています。アンケートの集約結果を講師に速やかに返すことにより、各回の講座に反映させています。アンケート結果では、参加者の満足度は80%~100%となっており、市民の学習ニーズを的確にとらえた講座を実施することができ、高い参加率を維持しています。 市民企画講座の実施数の増加に伴い、これまで実施してきた講座の見直しを行っています。
	課題等	<ul style="list-style-type: none"> 市民企画講座の実施時期に偏りがあることが課題です。 市民企画講座の参加率は、選択肢が増えた分、講座によってばらつきがあります。 		

目標達成に向けての次年度以降の対応	
方向性	対応策等
A (行動)	<p>1: 計画通りに進めることが適当</p> <ul style="list-style-type: none"> 市民企画講座において類似テーマの日程が同時期に開催されることがあるため、時期を分散させる等工夫して多くの市民が参加できるよう調整していきます。 これまで実施してきた講座については、講座内容を精査し、市民が有する知識やスキルを還元する場にも貢献している市民企画講座への振替を引き続き検討します。 講座数が多い市民企画講座の実施時期や内容が一目でわかるように、実施予定の講座一覧(3~4か月単位)のチラシを作成し、多くの人の目にとまる機会を増やします。

分野	33	生涯学習・文化・スポーツ	通番 68
施策	331	生涯学習環境の充実	
5年後の目標		誰もが人生を通じて学びへの意欲を向上させ、また、仲間とともに学びを楽しんで、自己実現につながっている。	

概要								
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目			決算額(円)	担当課	
	中央生涯学習センター 管理運営事業		会計	款	項	目	68,353,120	生涯学習課
			一般	10	1	5		
事業の概要								
市民の自主的・自発的な生涯学習活動の場として、中央生涯学習センターを管理運営します。								


令和元年度の取組							
D (取組)	指標	中央生涯学習センター貸室利用率				単位	%
	現 状 (計画策定時)	年度	28	29	30	1	2
	47.8(平成26年度)	目標	48.0	48.5	50.0	50.0	50.0
		実績	51.9	50.5	51.7	48.7	
	<ul style="list-style-type: none"> 中央生涯学習センターの管理運営は、指定管理者である大阪ビジネススクリエイト株式会社に委任しています。 指定管理者の自主事業として、はじめの一步体験、バンビオ健康のつどい、ふらっとコンサート、染ラボ、子育て応援講座、バンビオステップアップライブ、料理講座などを行いました。 生涯学習機関紙「be→!」や「バンビオここから通信」発行、ホームページでのイベント情報の掲載など、さまざまな方法で情報発信を行いました。 						染ラボ(多色刷り)
							

施策の「5年後の目標」に対する評価						
令和元年度の達成状況						
C (評価)	評価指標	関連する評価指標		評価指標の傾向・トレンド	対応頁	
		主な社会教育施設の利用者数	年間約40万人で推移しています。			202
	達成度合	B: 目標をほぼ達成できた(目標の80%~100%程度)	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> 貸室利用率は、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴うイベントの自粛要請等により、目標達成には至りませんでした。年間を通じて利用率増加に向けた様々な取り組みを行いました。 自主事業「みんなの自習室」や「みんなの音楽練習室」、親子で遊べる遊具広場「Bambio遊Good」などが定着し、メインホールなどの利用率上昇に貢献しました。 		
課題等	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う休館や活動自粛により、貸室利用率をはじめ、管理運営事業全体に大きな影響が出ています。 					

目標達成に向けての次年度以降の対応	
A (行動)	方向性
	1: 計画通りに進めることが適当
	<ul style="list-style-type: none"> 今後も新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う休館や利用自粛・利用制限等によって、管理運営事業への大きな影響が見込まれますが、変化する社会情勢に合わせた対応を行いながら生涯学習活動の場の確保に取り組めます。

分野	33	生涯学習・文化・スポーツ	通番 69
施策	331	生涯学習環境の充実	
5年後の目標		誰もが人生を通じて学びへの意欲を向上させ、また、仲間とともに学びを楽しんで、自己実現につながっている。	

概要								
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目			決算額(円)	担当課	
	図書館サービスの推進・充実		会計	款	項	目	27,946,316	図書館
			一般	10	4	3		
事業の概要								
<p>市民の教養と文化の発展のため、全ての住民の読書を通じた生涯学習の中核施設である図書館資料を充実するため、図書の計画的な入れ替えを図って行きます。特に読書意欲の醸成を行うには幼少期から図書に親しむことが大切であることから、「えほんのひろば」「子どもの広場」等幼少期から本に親しむ事業を展開しながら、特徴の一つである児童書の充実を図って行きます。</p> <p>また、市民に利便性の高い図書館サービスの充実を図っていくため、開館時間の延長・ブックポストの増設・図書館に来ることができない高齢者・障がい者に対しての図書の宅配サービス等を図書館の運営形態の在り方をも含め検討を行います。</p>								

令和元年度の取組							
D (取組)	指標	図書館図書貸出冊数				単位	冊
	現 状 (計画策定時)	年度	28	29	30	1	2
	410,400 (平成26年度)	目標	426,000	432,000	438,000	444,000	450,000
		実績	422,928	429,450	425,030	409,006	
<p>・読書啓発行事として、月1回「えほんのひろば」「子どもの広場」「おはなしとブックトーク」「子どもの本を読む会」、単発行事として「身近な科学あそび」「読書講演会」「子ども読書の日のおはなし会」を開催しました。また、戦争と平和に関する展示等テーマに沿った展示を行いました。</p> <p>・ボランティアによる視覚障がい者の対面朗読や図書館利用困難者に図書の宅配・回収を行うアウトリーチサービスを実施しました。</p> <p>・中高校生の読書啓発に1階一般室にティーンズコーナーを設置し、立命館高等学校と協働で図書館利用のリーフレットを作成しました。</p> <p>・図書の除籍資料を有効活用するため、リサイクルデーの他に譲渡するコーナーを設けました。</p>					<p>1F一般室にティーンズコーナーを設置</p> 		

施策の「5年後の目標」に対する評価				
令和元年度の達成状況				
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応頁
			—	—
	達成度合	B: 目標をほぼ達成できた(目標の80%~100%程度)	<p>・蔵書計画を見直した結果、目標値の9割以上達成できました。</p> <p>・本の選び方や語り方を学ぶ「読み聞かせボランティア養成講座及び実技講座」を実施し、幼少期より読書に親しむ取組みを実践する次世代の担い手育成に努めました。</p> <p>・図書館利用困難者へアウトリーチサービスを行い、読書環境の充実を図りました。</p>	
	課題等	・限られた財源の中で、より多くの市民に活用してもらう図書館機能とサービスの充実に向けた取組みが必要となっています。		

目標達成に向けての次年度以降の対応	
A (行動)	対応策等
2: 進め方の改善の検討が必要	・総合計画、教育振興計画に基づき図書館の目指す将来像を描き、ボランティア団体との協働により、これまで以上の読書啓発活動に努め、市民の教養と文化の発展を考えていきます。